

コロナ第5波 実態調査

11/19 五九



新型コロナ第5波の実態調査を報告し、政府に要請した日本医労連＝18日、日本医療労働会館

看護現場 疲弊し離職絶えず 次に備へ増員必 医労連会見

日本医療労働組合連合会（日本医労連）

は18日、東京都内で会見を開き、新型コロナ感染拡大により、医療現場が深刻化した第5波（今年4月から5月）の期間の医療現場の実態調査を発表しました。政府に対する医療体制の強化などを要請しました。

1,633施設を対象に、コロナ患者の受け入れについて、「毎日用病床を増やした」が13・2%、「中・重症用病床を増やした」が43・4%、「PCR検査が多かった」と回答しました。

28・2%。「第4波と比べて稼働率も上積みました」。「1人以上離職した医師も4割以上」と

述べた川上博士（左写真）。第4波と比べて稼働率も上積みました。「1人以上離職した医師も4割以上」と述べた川上博士（左写真）。

「看護も臨床となる中で助けられる患者が減ったので、安心感がない」と嘆息する佐々木悦子看護長（右写真）。

7%。次いで「病床確保が21・1%（賃金引き上げ）」11・8%など続ります。

公立・公的病院の統廃合に関して、「園はべッドを増やせばいい」などと指摘。医労連内では、「資金は需要や時間外を含めなければ無効」と指摘。

医療現場で改善や医師・看護師の待遇などの問題を抱えていることから、看護師の基本給は55歳でも平均37・8万円で、医師を除く正職員の平均は28・4万円。松田加賀美執行委員長は、看護師の平均賃金が月39・4万円などと明らかに差があると言います。

川上博士は、「看護記録では、「入院不足で患者が行き止られた看護ができない」と訴えていました。川上博士によると、「看護不足で患者が後を絶たない」と指摘しました。

佐々木悦子看護長は、「入院させたとしているが、現状は人手不足で疲弊している。第5波に備え、医師・看護師を確保するための具体策を政府がしっかりと打ち出さなければ」と再び要請です。

医療崩壊が起きかねない」と指摘。法改正による強制力では病床や人材は確保できませんこと認識して処置の実施を求めるとしている。医労連では、「医師・看護師の人材確保はじめ、マスク戴用等の規範化への改進」と指摘。医労連では、「医師・看護師の基本給は55歳でも平均37・8万円で、医師を除く正職員の平均は28・4万円。松田加賀美執行委員長は、看護師の平均賃金が月39・4万円などと明らかに差があると言います。

川上博士によると、「看護不足で患者が後を絶たない」と指摘しました。

佐々木悦子看護長は、「入院させたとしているが、現状は人手不足で疲弊している。第5波に備え、医師・看護師を確保するための具体策を政府がしっかりと打ち出さなければ」と再び要請です。

これまで「医療崩壊が起きた」といっても、それが何を意味したかがよく理解できませんでした。政府・厚労省に要請。医師・看護師の人材確保はじめ、マスク戴用等の規範化への改進」と指摘。医労連では、「医師・看護師の基本給は55歳でも平均37・8万円で、医師を除く正職員の平均は28・4万円。松田加賀美執行委員長は、看護師の平均賃金が月39・4万円などと明らかに差があると言います。

川上博士によると、「看護不足で患者が後を絶たない」と指摘しました。

佐々木悦子看護長は、「入院させたとしているが、現状は人手不足で疲弊している。第5波に備え、医師・看護師を確保するための具体策を政府がしっかりと打ち出さなければ」と再び要請です。